

平成26年4月 実験棟前にて撮影

目 次

社長挨拶]
取締役挨拶
社員からのメッセージ
安全・品質管理部 ······ 5 施設管理部 ····· 6~9
ビジネスパートナーからのメッセージ12~13
職場風景
経営企画部
安全・品質管理部 18 ~ 19
施設管理部 機械G20
施設管理部 電気G21
施設管理部 制御 G ·······22
施設管理部 計測 G · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
施設管理部 研究支援G ······24
加振実験状況25
本社周辺風景26
施設周辺風景27
レクリエーション
事業の変遷32~44
10 年の変遷 32 ~ 35
体制の変遷 36 ~ 39
取締役・社員の変遷 (現職)40
役員の変遷41
取締役・社員の変遷 (元職者)42
株主の変遷43
売上高の変遷
編集後記

社長挨拶



会社設立10周年を迎えて

1995年(平成7年)1月17日に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)では、建物、橋、道路、港湾など多くの構造物で未曾有の被害が発生しました。これをきっかけに国は、今までの構造物の耐震性の評価方法を見直す必要を認識し、構造物の破壊過程を調べることが重要と判断しました。そのための研究開発に向けて、2005年(平成17年)3月、独立行政法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センターに「実大三次元震動破壊実験施設

(E-ディフェンス)」が完成しました。

この施設は、阪神・淡路大震災による構造物被害の教訓を活かし、地震から人命を守る構造物の設計を目指して、実大規模の構造物を実際に破壊し、破壊メカニズムの解明や耐震補強効果の検証等を行う世界最大級の実験施設です。 Eーディフェンスの震動台は、15メートル×20メートルの大きさがあり、その上に最大1200トンの構造物試験体を載せ、最大水平加速度900cm/s2、最大垂直加速度1500cm/s2の実際の地震と同じ複雑な三次元の揺れを造り出すことによりその破壊性状を研究することができ、その性能は世界最高のものです。

Eーディフェンスの運転・維持管理および点検を効果的、効率的かつ安全に行うためには、Eーディフェンスの特徴、仕組み等を熟知していること、また、電気主任技術者、高圧ガス製造保安責任者などの資格を有する人材がいること、震動実験の供試体製作のために特定建設業の許可を取得する必要があることなどから、その支援会社として2004年(平成16年)4月1日、震動実験総合エンジニアリング株式会社(SEITEC: Seismic Testing & Engineering Corporation)が設立され、同年7月1日に業務を開始しました。その後、実大三次元震動破壊実験施設(Eーディフェンス)の総合取扱説明書作成等の業務を行うとともに支援会社として必要な知識と経験を習得して、平成17年4月にEーディフェンスの運転管理・保守点検及び兵庫耐震工学研究センターの実験支援を開始しました。

平成18年4月には、業務を拡張して兵庫耐震工学研究センターの一般見学者の案内を開始しました。 平成19年9月には、社員全員が業務を進めるうえで大切な意識の方向性を定めるために経営目的としての社是(「顧客第一」、「安全第一」)と行動理念(「安全を合言葉に、設備と対話、お客と対話、仲間と対話」)を制定しました。

平成22年12月には、業務の品質と安全を確保し、顧客満足を向上させるための品質管理の手段として新たに JIS Q 9001:2008(ISO 9001:2008)認証を取得しました。

このような努力の甲斐もあり、平成25年1月には、兵庫耐震工学研究センター開始以来、100万時間無災害記録を達成し、現在もこの記録は伸びております。

さらに、平成25年12月には、JIS Q 9001:2008 (ISO 9001:2008) 再認証を取得し、それまでの社是と行動理念をより分かりやすく具体的なものに改定するとともに、これからも引き続き業務の品質確保に一層力を入れていくことにしました。

当社はこれまでEーディフェンスの支援会社として常に質の高いサービスの提供を目指して参りました。Eーディフェンスによる実験はいずれも地震による国民の生命財産の守る上で非常に重要な成果が期待されるものです。

当社は、これからも安全確保を旨として技術力の研鑽に努め、かつ良好な人間関係を築きながら、常にEーディフェンスの性能を最高に発揮、維持して参ります。そして、顧客満足の更なる向上を目指すとともに質の高い社業を通じて国家社会の繁栄に寄与して参ります。

このたび、会社設立10周年を記念して、設立当初からの社員には「10年を振り返って」と題し、その後入社された社員には「10周年を迎えて」と題して社員全員に原稿を執筆してもらうとともに日頃見学者対応をお願いしている方々にも執筆していただきました。この記念誌が社員のこれからの励みと思い出の一つになることを願うものです。また、今まで弊社とかかわりのあった多くの方々に深く感謝申し上げ、今後とも変わらぬご厚情を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上

平成26年4月1日

震動実験総合エンジニアリング株式会社

代表取締役社長 喜多 俊清



10年を振り返って

当社は、Eーディフェンスの支援会社として、平成16年に設立され、10年を経過致しました。 Eーディフェンスの建設は、それより更に8年を遡る平成8年の初めに、平成7年度の補正予算として「加振機構の要素技術開発」が予算化されることに始まります。

私は、それまで香川県の多度津町にありました原子力発電技術機構の振動台に出向しておりましたが、平成7年8月に復職し、この補正予算の獲得からEーディフェンスの建設に係わってまいりました。

皆様ご承知の通り、Eーディフェンスは阪神・淡路大震災を契機に建設された施設です。

そのため兵庫県南部地震が再現できる施設とするために、世界に二つとしてない非常に巨大な施設です。このような施設を実現させるためには技術的に克服し検証しなければいけないことが多くありましたので、それらを確認するために、「加振機構の要素技術開発」が予算化されたわけです。その後、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の再現ができるよう、長時間加振ができるように改造もなされました。阪神・淡路で生まれ東日本で育ったといった感じがします。

Eーディフェンスに係わり、それによって生活をさせてもらっている者として、両震災で犠牲になられた方、未だ多くの苦悩の中におられる方々へ、申し訳ないという気持ちを拭い去ることができません。

一方、当社は4月時点で、20名で運営しておりますが、設立時19名、最多時26名で運営してまいりました。 設立以来54名(社員)、13名(役員)の方々が当社に係わり、その発展に多大なる御尽力をいただきました。(42ページ参照) 特に会社設立という無から有を造り出す草創期の業務に携わった方々のご苦労は如何ばかりであったろうと敬服の至りであります。当社はEーディフェンスの維持管理・運転だけでなく、研究に直接係わる「研究支援業務等」や「見学対応業務」にも力を入れて社業の発展に資するようにしたいと思いますので、ご関係の方々になお一層のご協力をお願い致したいと思う次第でございます。

取締役 木嶋 達夫



10年を振り返って

試験装置メーカーの設計担当として、平成1年から、当時の世界最大の振動台(昭和57年完成:元原子力発電技術機構殿所有)の主任技術者でもあった私は、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災発生直後から防災科学技術研究所殿のご依頼を受け、本施設(実大三次元震動破壊実験施設(Eーディフェンス))実現に繋がるFS(フィジビリティ・スタディ)をスタートしました。先ずは現仕様にたどり着くまでの基本計画を行い、それを実現するための要素技術開発(Phase-1)(加振機、三次元継手、震動台の開発)に、平成8年から着手しました。平成9年の確証試験を経て、実機実現の目途を得た上、平成10年から実機設計(Phase-2)をスタートし、平成

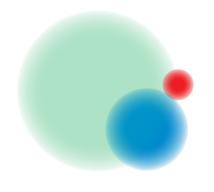
11年からは実機製作、平成13年から現地工事入りし、平成16年からの加振機構据付、総合調整運転を経て平成17年1月 15日に無事「お披露目」を迎えることができ、当初の目標であった「震災から10年で完成」を達成し、平成17年4月から運 用が開始されました。

しかし、そこにたどり着くまでの間、サーボ弁損傷トラブル対策や、システム全体として組上げて初めて判明した低油 圧戻りラインのハンマリング現象の原因究明や対策に明け暮れたことが昨日のことのように思い出されます。一方、本 施設の維持管理を行う会社として弊社:震動実験総合エンジニアリング㈱(サイテック)が平成16年4月1日に設立され、 今度は、施設を運転・維持管理する立場として私はサイテックにお世話になることとなり現在に至っています。運用開始 後、これまでの10年間、幸運にも全ての実験を無事に遂行することができ、平成25年1月には100万時間の無災害記録の 達成もできました。また平成22年12月にはISO9001資格を取得、平成25年12月の再認証審査にも合格し現在に至って います。これらは全て関係の皆さんのご協力の賜物と感謝しています。

私にとって本施設は、ゼロからの参画であり、「ものづくり」として無から有を生み出せたこと、30年に一度あるかないかというビッグプロジェクトに跨って関わることができたこと、社会の減災研究のお役に立っていることを考え合わせると、全く技術屋冥利に尽きます。奇しくも平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機に長周期地震動対応のための性能アップがなされ、地震防災のための本施設の社会貢献が今後ますます必要となってきているところであり、我々の役割もさらに重要になるものと認識を新にしているところです。

FSスタートから施設完成までの10年、運用開始からこれまでの10年を数えると、私にとって本史は20年史とも言えます。安全と品質を両輪とする会社として、今後とも社会に貢献して行きたいと考えています。

取締役 小池 明士



社員からのメッセージ



社員からのメッセージ

社員からのメッセージ

経営企画部



部長 木嶋 達夫



入社時の思い出など

私は平成22年7月に出向社員として、54才で当社の新入社員になりました。出向元では鋼鉄製構造物(鉄骨、鉄塔、橋梁、軌道構造等)の設計と製品管理を担当していました。従って当社で担当する業務(管理間接業務全般)についての予備知識や経験は無く、「漠然とした不安の中での出向(出航?)」でした。

入社面接時に上司と初めて神戸電鉄栗生線に乗りました。山岳鉄道の様な急勾配の線路と、深い緑の山並み(5月下旬の初夏の頃)が目前に迫り、「どこへ連れて行かれるのだろう?」という不安と、未知の仕事への焦りでいつになく悲壮な気持ちになり、「まだか?まだか?」と何度も上司に尋ねたことなどをまず思い出します。

入社後の会社生活は文字通りすべてが「仕事=学習」の毎日で、これは現在進行形です。当初 はセンターへ行く機会も少なく、皆さんの顔と名前を覚えるのに苦労しました。また当時は

ISO9001認証取得作業の総仕上の時期と重なっていたため、事務局として二井内次長と一緒に苦戦を重ねた事などを懐かしく思い出します。

担当する管理間接業務は勿論ですが、仕事は様々な経験を積んで自ら体得していく以外になく、まさに「1%の閃き(?苦笑)と99%の努力」が必要だと思います。皆さんに「努力の人」と呼んで戴ける様に、今後も「コツコツと音の出る様な」精進を続けてまいります。

経営企画課 • 西川 隆



振り返って思うこと

私は平成20年1月から、派遣社員としてサイテックで勤務しています。

初めは経理ソフトの入力と銀行振込、請負工事の書類発送が主な担当でしたが、今は勤労と見 学受付も担当しています。

私自身は7年目ですが、同じところで何度も注意を受け、その度に、部長・課長に根気よく指導をしていただいています。

サイテックで教えていただいた中に、「何かを調べる際は どこの誰が言っているのか(どの法律に書いているのか・法律になければ、どこの条例や判例に載っているのか)をきちんと調べなさい」「人によって違ってくる「当たり前」や「常識」、「世間一般」というあやふやな情報ではなく、根拠を示しなさい」という事があります。

まだまだ自分の常識・考えを捨てきれていないですが、今後も気を付けていきたいと思います。

また、吉田社長(当時)・安田専務(当時)が在籍されている時、在籍期間が長かった事もあるでしょうが、本社はアットホームな雰囲気でした。

社長が交代し、会社全体の雰囲気は少し変わったように感じますが、サイテックが今後もいい雰囲気で働ける会社であって欲しい と思います。

経営企画課 • 梅原 章予





部長 小池 明士



設備改善への取組み

平成19年4月1日付で、三菱重工業(株)高砂研究所の流動・燃焼研究室から震動実験総合エンジニ アリング(株)に出向し安全衛生管理責任者として日々の安全管理業務に携わりました。

平成22年3月末で三菱重工(株)を定年退職し、同年の4月1日付で震動実験総合エンジニアリン グ(株)に引き続きお世話になる事となり、出向期間中と同様の業務に携わり今に至っています。

私が出向期間中に先ず取組んだ事は、リスクアセスメントを試行した設備改善(施設内の危険個 所改善)です。リスクの洗出し総件数615件(試験体製作~撤去工事、計測準備作業、試験、各機器の 日常点検)の中から、危険度の高い順に19件を改善が必要な工事として防災科研殿に提案すると共

に、大学の先生方や(独)労働安全衛生総合研究所の 方々等の委員で構成されるセイフティマネージメ ント検討委員会で報告し、改善実施の必要性にご

■ 垂直タラップ 階段





件に対する設備改善工事を平成21年度中に完了する事が出来ました。不具合箇所の改善は「作 業効率の向上」と、無災害記録(継続時間)の継続にも繋がるものと思います。右記写真に設備 改善の一例をご紹介します。狙いは、「垂直タラップを排除し安全に昇降可能な階段に改善す る事です。

これからも安全第一をモットーに、社是及び行動理念、品質方針等の事項を忠実に遂行すると共に、若手社員の指導に当たりたいと思います。

安全・品質管理部

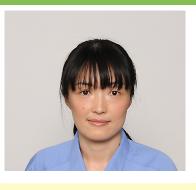


設立十周年

平成25年12月に入社させていただきました。不慣れな事ばかりで、毎日悪戦苦闘しながら業務 を覚えている最中です。

今まで起きた地震による災害を無駄にする事なく、今後起こるであろう大地震に備え研究が 進み被害を最小限に、また極力0に近づけられる様に研究者を支え、未来の子供達が安心して暮 らせる国にするためのお手伝いが出来る会社である事を誇りに思います。

会社が設立されてから10年、先輩方が築き上げて来られたこの10年を無駄にしない様に更に10 年また10年…と積み重ね、今後自分が教える立場になった時、この今の気持ちを忘れる事なく次 の世代へと継承していくことが出来ればと思っております。地震により引き起こされる火災や津波 などの二次災害を含めた安全対策が進む事を切に願っております。 未来ある子供達のために…。



「9年を迎えて」

平成17年4月に入社させて頂き、気づけば丸9年になります。この9年間は私には長いものでし たが、世界最大の震動台での実験を間近で見ることができ、様々な方との出会いを通して勉強 になることが多く、実りある9年間だったと思います。

未熟さから会社の方にはご迷惑をおかけしたことも多かったのですが、変わらず接し、指導 して頂いたおかげで、少しは人並みに近づくことができ、感謝しております。

私は決して会社人間ではありませんが、会社なくしては自分を顧みて反省することもなけれ ば、成長することもなかったことを思うと、私の人生に会社はなくてはならないものだったのだ と思います。感謝の気持ちを胸に、今後もより役に立てるよう頑張って、節目の10年を迎えたい と思います。

安全・品質管理部・

施設管理部



部長 一ノ尾 博幸



10年を振り返って

私は、三菱重工業㈱・高砂研究所で振動に関する研究・実験業務に携わっていました。 平成7年1月17日の兵庫県南部地震が起きたのをきっかけに、国として実地震波による実物大 試験体の破壊実験施設が建設されました。

私は、高砂研究所での経験が活用出来ると考え、設立当初よりサイテックに御世話になっています。 入社後は、制御・計測関連の業務及び機械関連を含めた業務を行って来ました。主たる維持 管理業務においては、多々問題発生もありましたが、試験遂行に御迷惑を掛ける事無く、無事 現在に至っている事に満足しています。試験では、木造建屋の倒壊試験、RC構造物の崩壊試験、 鉄骨構造物の崩壊試験等々、様々な試験を行い、実物大試験体の迫力には圧倒されると同時に 自然災害の恐ろしさを強烈に感じています。 今後も、社員一同が協力し、しっかりと維持管理 業務に努めてまいりたいと思います。

施設管理部 ・ 一ノ尾 博幸



10年を振り返って

平成16年7月震動実験総合エンジニアリング㈱に出向、三菱重工業の傘下に入り業務習得を開始した。当初トラブルが続出し、その中でも装置引渡し前のサーボ弁交換点検時にサーボ弁スリーブ損傷およびスプールの焼付きを確認。スリーブの応力挙動、スプールの焼付き等事象再現のため、各種試験条件を模擬した環境下でベンチ試験を行った事等、つい最近の事のような気がします。

また、装置試運転中レベルEが発生し、振動台が制御不能となり、継手・着座台の損傷、作動油が大量に漏洩し、処理に1週間以上費やしたこと、継手潤滑油タンクの吐出バルブ異常動作による装置停止、スカベンジライン電動弁の損傷等油圧機器類のトラブル、ガスエンジンのトラブル、計測系のトラブル、装置トラブルによる公開加振試験日延長等、運転時の異常警報発報に右往左往し、その都度、三菱重工社と協力してトラブル対策に奔走した事等挙げれば限りがない。

施設運用当初続発したトラブルも10年を迎えトラブルの件数は減少したものの、これからは各機器類、盤内電装品等々経年劣化に伴うトラブルの増加、更に設備改造による新たなトラブルも懸念されます。今後は、これまで起きた不具合を再度見直し、より細かな点検・管理を行なって行きたいと思います。

施設管理部 機械・電気グループ・ 鈴木 政宣



E-ディフェンスに関わって

東日本大震災では、多くの犠牲が発生し、未だ復興の途中にある現在です。

防災科学技術研究所では、地震による災害を少しでも軽減し、尊い人命を守るための研究が行われており、その研究支援業務に参加できることは、私にとって貴重な体験となるでしょう。

Eーディフェンス、電気設備、防災設備、制御装置及び高圧ガス製造設備等に携わることができ、自身の業務容量拡大と少しは社会貢献できる範囲が拡がったかなと自負しています。 また、本実験施設に関わる機会があったことと、先輩諸氏のご指導、ご協力のお蔭をもちまして、経済産業省保安監督部近畿支部長表彰をいただくことができ、感謝しております。

本実験施設は、阪神淡路大震災の地震波再現の仕様で設置されたと聞いております。その後の東日本大震災は、本設備仕様を超える大地震でしたので、それに対応した実験も可能とすべく、改造工事が施されました。これからも、社会のニーズが変化してゆく中で、我社に対する客先のニーズも変わってゆくと思われます。まだまだ未熟ですが、「減災の為にできる事を」を念頭におき、得られた知識・知恵を向上しながら、またそれが後輩の役にも立つよう努力してゆく所存であります。

施設管理部 機械・電気グループ ・ 大西 博



6年前の私

私がこの会社にお世話になって早6年が過ぎました。ここに来るまでは建設現場で電気工事をしており、Eーディフェンスの建設にも一時期携わっておりました。電気工事に関しては、だれにも負けない自信がありましたが、ここで仕事をするようになったとき、パソコンが使えないと仕事にならないので困りました。

建設現場で電気工事をする上でパソコンは必要ありませんでしたので、エクセルやワードなどというソフトは使ったことがありませんでした。

6年前の3月に来た時、前任者から5月に電気設備と防災設備の定期点検があるので、工事の要領書が必要ですと言われ、作り方の説明は受けたのですがエクセルやワードを使ったことが無かったため、そこから勉強しないとダメだったので大変苦労した事を思い出しました。今でもあまり使えませんがそれなりにやっています(笑)。

施設管理部 機械・電気グループ・佐伯 勇美男



10周年を振り返って

私が三木市の防災科学技術研究所へ来たのは、平成15年の7月でした。きっかけは、ここの建設工事が三菱重工(株)の下関が担当していたのが第一です。

平成17年の7月にサイテックが産声を上げて一年間三菱から出向したら下関に帰任するようになっていました。しかし三菱の上司からもう少し頑張ってくれと言われ何時のまにか10年という年月が経過しました。出向期間が8年間、サイテックに社員となってから、もう2年経ちました。

この10年を振り返って見て、サイテックという会社が産声を上げた時から、色々な企業から 出向者が来ていて社員は殆どいなく寄せ集め集団でした。三菱(下船、高研)、きんでん、関電プ ラント等の出向者とわずかな社員でスタートしましたが、前途多難で試行錯誤しながら仕事を していたことを覚えています。特に縦、横の繋がり、各人の性格等分からないまま付き合うので すから本音を言ったりすることもなく、ただ淡々と年月が経過していました。3年、4年と経過

するたびに一人、二人と親会社に帰任するし、そのたびに、新しい人が入社され慣れ親しむまでに入社した人も、我々も苦労した事を覚えています。7年経った頃から三菱の出向者が定年を迎え、社員となるようになってからやっと会社も落ち着いてきたなと感じる様になりました。

最近では、サイテックも若い人が社員として入社するようになり、我々年寄りもこれから若い社員を一人前になる様にしっかり仕事を覚えて貰う事と、安全第一を肝に命じて貰える様に、最後のご奉公のつもりで頑張っていきたいと思っています。

施設管理部 機械・電気グループ・ 城井 健-



10 年を迎えて

10年を迎える「サイテック」は、職種のニーズにあったエンジニアのスペシャリスト(職人)が存在するたくましい会社だと感じます。

さて、私としては、会社が 10 年を迎える今、今後諸先輩方が居られなくなる 20 年目へとバトンを繋げていかなければなりません。

近年の状況としては、出向者の帰社、または若手中堅社員が長続きせず、その都度戦力ダウンとなり、永年勤めている社員が苦労する光景を繰り返し見てきたように思います。少数精鋭人数の会社として人を育てるのが難しいという問題とも感じられますが、これからは採用していく新人社員をサイテックに必要不可欠な人材へと育てなければ会社の成長も難しいと思います。 顧客はもちろん大切ですが、「働く人にとって魅力的な会社」となるよう、社員全員の気持ちと技術が、会社とともに成長するサイテックになれば良いと思っています。

施設管理部 機械・電気グループ・ 田村 英和



今後の目標について

サイテックでお世話になり、5年目を迎えようとしています。入社当初は、機械系の仕事について知識は浅く、経験不足で維持管理業務をやっていけるか不安でした。そんな僕に、皆さん丁寧に仕事を教えてくれて、とても感謝しています。どんな作業でも、まず見本を見せてくれ、それから自分の手で作業をさせてもらい、一つずつ技術を習得していきました。出来る作業が増えると、仕事が楽しいと感じるようになりました。

まだまだ、技術者として勉強することは、たくさんあります。装置にトラブルが起こった時の対応、 的確な処置が判断出来るよう経験を重ね、先輩方のような技術者になれるように努力していきます。 また、機械系の仕事だけではなく電気・計測・制御の仕事に関しても挑戦し知見を広げていき たいと思います。

施設管理部 機械・電気グループ・ 大森 茂樹



新しいスタート

平成26年3月に入社させていただきました。私の人生で新しいスタートです。私の家は阪神 淡路大震災により全壊しました。古い家だったため、耐震、免震構造ではありませんでした。そ れ以来、地震について関心を持つようになりました。

サイテックではEーディフェンスの施設維持管理をしています。日本人として国家の施設に携われることは、幸せなことだと思います。

お役に立つよう日々精進していきます。これからも宜しくお願いします。

施設管理部 機械・電気グループ・ 溝口 太樹



世界最大の震動台

私が震動実験総合エンジニアリング株式会社にお世話になったのは、平成17年10月からです。 Eーディフェンスは、平成17年4月からの運用されており、約6月後に入社したことになります。入社以来、計測装置関係の担当として携わらせていただいています。世界最大の震動台であるEーディフェンスでは、実物大の木造建物、鉄筋コンクリート建物、橋梁、地盤などを阪神淡路大震災クラスの加振が出来るので、かなり追力があります。

Eーディフェンス設立のコンセプトは、【「なぜ壊れるのか?」「どう壊れるのか?」「どこまで壊れるのか?」を三次元の地震動で加振してその破壊のメカニズムを究明する】というのがあるそうです。そのような規模の大きい業務に携わらせていただけることは、とても光栄に思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。

施設管理部 制御・計測グループ ・ 松本 昌禎



10周年を振り返って

まず10年を振り返って思うことは、「長かったな」ということと、「早かったな」ということです。 サイテックへ入社した当時は映像、計測の仕事をしていました。入社当初、仕事の内容や施設内 が全くわからず、また工事現場といったものも初めてで右往左往しており、一日、一ヶ月、一年が 非常に長く感じたことを覚えています。現在も迷惑をかけていないとは言えませんが、当時は何 もわからず動きも悪い、非常に手のかかる社員だったのだと思います。制御担当になった当時も わからないことが多く、やっていけるか不安がありました。

しかし入社当時のサイテックは全員が自分よりも年配の方で、仕事も手馴れており、困ったときは分野を問わず色々と教えていただきました。それによって会社内にも馴染み、仕事に慣れ、現在の自分がやっていけている原動力になっているのだと思います。

当時から思えば「長かったな」と思えることでも、10年という歳月を振り返って思えば、仕事にも慣れ、とても「早かったな」と感じます。それもすべて、この10年間サイテックという社内で出会った方々によるものと思っています。今後サイテックで働く上で、同じように自分も人に教えていけるよう、慣れに気を抜かず意識を持ってやっていきたいです。

施設管理部 制御・計測グループ・ 折笠 悠太



入社から振り返って

平成21年9月14日から約4年半、サイテックの計測業務でお世話になっています。その間、様々な加振実験に関わらせて頂きました。世界に誇る施設での震動破壊実験を初めて見たときには圧倒されました。特に木造建物が倒壊する様子は迫力満点であり印象的でありました。

技術的な知識や経験はまだまだ未熟ですので、日々努力して自分に何が足りていないのかを考えて、客先の皆様のサポートがもっとできればと考えています。また、計測業務にはミスは許されません。TV放送でも取り上げられることが多く、世間からの関心も高い職場であります。常に緊張感を持って全ての仕事に全力で取り組んでいきたいと思います。

施設管理部 制御・計測グループ ・ 野村 茂雄



創立十周年に寄せて

私は、平成19年9月1日に入社し入社式のあと、世界一の加振施設の内部を案内していただきました。

地下ピットに入ったとき見たことも無いほど肉厚の配管が、あるものは、縦にまたあるものは横に複雑に延びているのを目の当たりにしました。

さらに驚いたことには、加振機を動かすために高圧の作動油がその配管の中を大量に流れていくということでした。

以来、六年半サイテックの一員として計測グループに配属され、実物大のビルや日本家屋の 加振実験のたびに、計測センサを試験体に取付け加振実験に臨みました。

実際にビルや家屋が加振実験で壊れてゆくのを見ると、そのたびに計測センサは正しく動作しデータが取れたのだろうかと気が気ではなくなります。そのようななか、加振実験に立

ち会われた人たちから、「いい実験だった」と言うお声を聞くと、この仕事にたずさわれて良かったと思います。 これからも、この世界一の加振施設に従事していることを、誇りに働いていきたいと思います。

施設管理部 制御・計測グループ ・ 太田廣宣



「E-ディフェンス」での実験

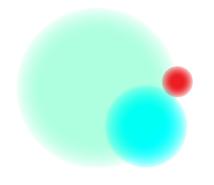
私が初めて「E-ディフェンス」へ来所したのは平成20年です。

来所するまで、私は恥ずかしながら「Eーディフェンス」という施設の名前も知らない状態でした。

大きさはもちろんのこと室内の様子や機器類が忠実に再現されている試験体を目の当たりにし、この施設で行われる実験のスケールの大きさに衝撃を受けたのを覚えています。その後、テレビのニュースや特別番組などで加振試験の映像を度々観るようになり、「Eーディフェンス」で行われる実験の影響力の大きさに驚きました。

私がサイテックへ入社させていただいたのは平成22年7月で、主に映像収録装置に関する 業務に携わっております。今後も日々努力を重ねて、ミスの無いように心がけて行きたいと考

施設管理部 制御・計測グループ・ 松本 祐貴



ビジネスパートナー からの メッセージ



ビジネスパートナーからの



ビジネスパートナーからの メッセージ



見学の方が地震・防災を考える一助になれば

震動実験総合エンジニアリング株式会社さんの10周年お祝い申し上げます。

私が貴社にお世話になり、Eーディフェンスの見学案内の担当を始めたのは、平成19年8月からで6年半余りとなります。

ここ数年国の内外から年間3千数百名の方が見学に来訪されています。実験映像を見ると多数の方から、木造家屋の倒壊、鉄筋コンクリートマンションの柱が破壊される様子に声が上がります。実験棟の見学では施設の巨大さにテレビで見るより迫力がある、運良く実験中で震動台が動けばその動きに、手摺の振動に歓声が起きます。海外の方の反応で印象的なのは、木造家屋の耐震補強に120万円を費やしたと説明すると「120万円は大変高額だ」と言われた点です。

見学の方には安全に楽しく施設をご覧頂き、地震に対して「建物の耐震性、家具等の転倒防止、 避難、等を考えて頂く一助になればと説明・施設の案内をしております。

株式会社 コベルコパーソネル 桑原 英雄



10 周年おめでとうございます

私の地震とのかかわりは、子供の頃、この世の中で恐ろしい事は、地震、雷、火事親父で地震が一番こわいと教えられていたことから始まる。それが現実となったのは、19年前の一生忘れる事が出来ない神戸淡路大震災である。多くの建物が破壊され、尊い犠牲者をだした。自然災害の怖さを自ら体験した。

現在、この実験施設を見学にくるお客様には、貴重な体験を生かして、地震の怖さを訴え、 公開される実験研究結果を一つでも理解してもらい、生かされることを願って接している。 いつもこの実験棟に向かい胸をはって呼びかけたい、ここでの実験成果が明日につながる生 きる人間の絆だと願ってやまない。

株式会社 コベルコパーソネル 杉本 俊昭



創立 10 周年おめでとうございます

変動の激しい時代に創業10周年を迎えられ、記念誌を発刊されるとのこと、お目出とうございます。会社の創業10年というと、人間に例えれば、少年期ではないでしょうか。今後20年、30年、そして50年、青年期から充実した壮年期へと一層の事業発展に向けて従業員皆さん一丸となってのご奮闘を祈念いたします。

私は、月に1~2回の数少ない見学案内ですが、今でも強く印象に残っている案内があります。頭にターバンを巻いたインド人の男性大学院生です。ヘルメットをつけた姿は今思い出しても笑いがこみあげてきます。言葉が通じないため身ぶり手ぶりでヘルメットの着用を説明したところ、彼はリュックサックの中から日本手ぬぐいを長くしたような1本の布を取り出し、ターバンの上にヘルメットを乗せてその布で顎に縛り付けました。そして、〇K?と、問いかけてきました。頭が50cm位に間のびしたようななんともユーモラスな姿ですが、即座の機転に感

心し、GOODと親指を突き上げました。

さて、現場でどう説明しようか、これは身ぶり手振りで通じるものではありません。学校の試験体の前に来るとカメラを私に向けて「話せ」と促しているのです。音声入りの動画撮影カメラらしく説明を止めると続けるよう促してきます。実験棟でも私の日本語の説明を撮り続けました。彼にとって理解不能な説明を一生けん命記録に留めようとするその姿、言葉が通じれば質問攻めにあっていたでしょう。彼がこの見学をどう感じ、何か得るものがあったかどうかは解りませんが、いろいろ考えさせられることの多かった案内でした。

株式会社 コベルコパーソネル 石原 克己



E-ディフェンスの見学者案内で心掛けていること

見学案内の業務をやらせて頂いて、早くも7年ほどになる。見学して頂くお客様に気持ち良く、かつ参考になったといって頂けるように、私なりに工夫してきたことを以下に述べてみたい。もちろん、これまで試行錯誤を繰り返しながら私自身も成長しつつ、やっとここまできた、というのが正直なところである。

当然のことながら、見学のお客様のご年齢およびこれまでのご経験などが多種多様であるから、 地震特有の専門知識・情報をお伝えするにも、一様にできないことはいうまでもない。

見学の方々には、わざわざ遠路はるばるきて頂いたのであるから、少なくともこれだけは知って お帰り頂きたい、と私が考えている事項は下記の通りである。

1)マグニチュード 2)震度(階) 3)地震時に発生する力 4)建物の耐震強度を増す方法 5)新しい免 震・制震技術 上記1)〜5)の事項を専門的な知識がなくても理解できるよう、ご説明すること

はなかなかむつかしいが、私が説明している内容のごく概要を以下に記す。

1)については、我が国における地震観測網(変位・速度・加速度観測)の現況をお話しして、マグニチュードの数値の物理的な意味(震源におけるエネルギー量の指数化)をご説明する。 2)については、マグニチュードとの相違と震度計が計測している物理量(周波数毎の加速度)および気象庁の震度階の概要をご説明する。 3)については、自動車の乗客になった場合を想定して頂き、運転手が急発進したり、急ブレーキをかけたとき、乗客が急な加減速により動揺する状態を想像し、建物も同様であることをお話しする。 4)については、筋違または壁を片寄りなく配置することの重要性をお話しする。 5)については、これからますますこの方向の技術開発が進展してゆくであろうことをお話しする。

お客様にE-Defenseを見学して頂いた結果、地震に関する諸々のことがよく分かるようになった、といって頂けるようなご案内になることが案内者一同の願いである。これからも分かり易い説明を心掛けてゆきたいと思っている。

株式会社 コベルコパーソネル 島本 明



被災経験を基に防災意識の向上と施設の重要性を

震動実験総合エンジニアリング株式会社設立10周年を謹んでお祝い申し上げます。 思い返すと阪神淡路大震災時、私達家族5人は阪神高速倒壊場所の近くに住んでおりまし

思い返すと阪神淡路大震災時、私達家族5人は阪神高速倒壊場所の近くに住んでおりました。幸いにも全員無事でしたが、築25年の我が家は半壊となり、傾いた床と柱の影響で、家内が体調を崩すことが次第に多くなりましたので、震災の翌年には長男と母親を残し、私達夫婦と二男は、加古川に移り住むことを決め、新たな家の建設に取り掛かりました。被災経験を踏まえしっかりと地盤調査し、頑丈な基礎と建物など耐震性を最優先したため、通常より費用が掛かりましたが、そのおかげで今は安心して過ごすことが出来ています。

昨年10月より施設の見学案内をさせて頂いておりますが、自身の被災経験を基に見学される皆さんの安全に配慮しながら、地震に対する備え(耐震性・転倒防止策・避難訓練等)とEーディフェンスの重要性を理解頂けるよう、懇切丁寧な説明を心がけております。

株式会社 コベルコパーソネル 藤澤 修三



サイテック設立 10 周年に寄せて

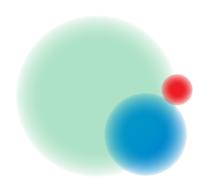
平成21年3月三木の防災科学技術研究所で見学者の説明要員を求めているとの情報に接 し、気軽に応募したが、現役時は機械設計と品質管理部門での経験しかなく、自然災害、特に 地震に関する知識は皆無でいささか後悔の気持ちがあった。

しかし、人前で喋ることを仕事の一部としていたので、まあ何とかなるだろうと、早速地震 に関する参考書を数冊買って知識を詰め込んだ。

数カ月の間は、見学対応マニュアルを手に先輩の方の説明を傍聴し、自分自身の言葉となるように懸命に覚えた。最初に私が説明を担当した時は、横におられた先輩の手助けを借りながら何とか出来た時は冷や汗をかいていた。それから5年、最近マスコミでEーディフェンスを取り上げる機会が増え、先日は毎日テレビが夜の2時間番組で長周期地震の状況を放映していた際は、何となく自分のしていることに誇りに感じた。

見学に来られる方には地震の怖さや、被害を少なくする具体的な方法、更にはEーディフェンスのような研究所の有用性を理解してもらうことに主眼をおいている。最後にこのような機会を与えて頂いた関係者の方々に感謝をしたい。

株式会社 コベルコパーソネル 有川 正俊



職場風景





◆ 社長室



本社は緑が丘郵便局の2階

本社建屋





経営企画部にて



◆ 本社事務所



施設内で見学者を案内し、保 管中の実験済試験体について 説明しています。





多勢の幅広い見学者に対し て、施設内を案内し、説明して います。







Eーディフェンスロビーで、映像を使って見学者へ施設の概要を説明しています。



■ 見学3



安全・品質管理部および施設管 理部事務所にて (Eーディフェンス内)

施設事務所

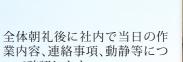




全入構業者が集合し、各業者の 代表者が、当日の作業予定、安 全指示内容、作業人員数等につ いて報告し、最後に全員で安全 作業について指差呼称で確認 します。



全体朝礼



安全ミーティング

いて確認します。



品

理課の

風



入構時の安全教育

Eーディフェンス構内で安全に作業するため、新規入構者を対象に安全教育を実施しています。

「安全第一」を徹底するため、特に高 所作業やクレーン作業等における 危険因子の洗い出しと、その対策に ついて教育しています。





緊急時には誰でも直ぐにAEDが使用 出来るように、AEDの設置場所と取り 扱い方法を実践で教育しています。 AEDが必要な時には、慌てないで適 切に使用して人命救助に繋げること が重要です。





実験施設内に設置されているワイヤーロープの損傷の有無や劣化の 状態を正確に把握して、適正に交換 していくため、点検と監視を毎月実 施しています。

素線切れ等が原因で負傷しないように、革手袋を着用して点検しています。



ワイヤーロープの 管理・点検

施設管理部

●●● 機械Gの作業風景





▲ ストレーナーの交換

冷却水循環ポンプ用ストレーナの目詰まりによってポンプが損傷することを防ぐため、ストレーナの交換を実施しています。

ストレーナは重いため、作業時には手 指等が挟まれない様に、相互に声を掛 け合って注意して作業することが必要 です。

◆ 窒素ガス貯槽装置の点検

液化窒素の液量、圧力、ガス漏れの有無等を関連する法令に従って点検しています。 圧力計、液面計等の読み取りミスが無いように注意することが必要です。

ガスエンジンに異常な動きが 無いかどうかをチェックする ため、運転時に振動を測定して います。

高温の箇所や駆動部の動き等に注意して計測することが必要です。

ガスエンジンの 振動測定





施



作業用電源盤 漏電遮断機の点検

電動工具などの絶縁不良による感電 を防止するため、漏電遮断器が確実 に動作することを確認しています。 通電状態で作業するため、感電する ことがないように注意して作業す ることが必要です。

受変電棟発電機の点検 🍑



非常時に人命や財産を守るため、非常 用発電機が正常に動作することを確 認しています。

近くに駆動部や熱源があるため、周 囲の安全確認を徹底することが必要 です。





電気・機械設備の点検および修理作 業の際に作業者の安全を確保するた め、電源ラインを遮断しています。 作業箇所以外の電源ラインを遮断 すると他の設備が停止してしまう ため、事前に操作する遮断機を特定 することと作業箇所の安全を確認 することが必要です。



高圧遮断器の人切操作

施設管理部

制御Gの作

業風景

THE PARTY AND TH



🙏 運転操作

振動台の運転に必要な各制御システムの操作に当たり、チェックリスト等を使用して十分な安全確認を行っています。

小さな操作ミスが重大事故に発展するおそれもあるので、これを未然に 防止することが重要です。

運転制御盤の点検

シーケンサ異常等による振動台の運転 停止を未然に防ぐため、制御システム のひとつである運転制御盤を毎日点検 しています。

精密機器であり、コネクタ部の緩みの 有無や作動状況等を細部に渡って点検 する必要があります。

振動台を運転する前に、運転する地震波形(地震の揺れの伝わり方を示す図)が、計画通りの波形であることを確認しています。

波形の違いによっては、重大事故に 繋がるおそれがあるため、細心の注 意を払うことが必要です。









施



加振実験時の 計測装置集録

構造物の破壊過程を調べるため に設置された数百点の計測セン サのデータを収録しています。 収録されたデータは、新しい耐 震・免震技術の検証と向上に有 効に活用されます。

加振実験時の 実験映像装置収録



実大規模の構造物に設置された ビデオカメラの一括収録システ ムを操作しています。

構造物の破壊過程を知るための 貴重な映像データとなります。





振動実験時に使用される計測センサ の健全性を確認しています。 計測センサには用途によって様々 な種類があり、各センサに最も適し た方法で入念に動作チェックを実

計測センサの動作チェック

施します。

施 部

研究支援Gの作業風景





変位センサの設置

地震動を再現した加振実験時に、構造 物がどれくらいの変位で動いている かを知るため、変位センサを設置して います。実験計画に基づいて正確な位 置に変位センサを取付ける必要があ ります。



地震動を再現した加振実験時に、構造 物がどれくらいの加速度で動いている かを知るために、加速度センサを設置

しています。 実験計画に基づいて正確な位置に加速 度センサを取付ける必要があります。



加速度センサの設置

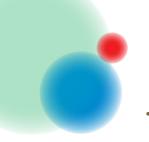
構造物の破壊過程を映像データとし て収録するため、構造物及び実験棟 の主要な箇所にビデオカメラ設置し ています。

実験計画に基づいて正確な位置にカ メラを設置する必要があります。

カメラの設置 🦫



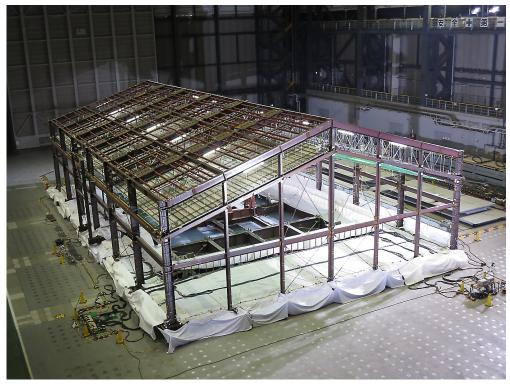




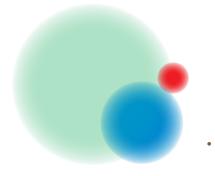
加振実験状況



実大免震建物の衝突による被害低減対策開発のための加振実験 平成25年8月



大空間建築構造体における非構造部材の実験 平成26年1月



本社周辺風景

平成 26 年 4 月



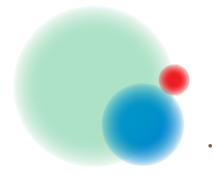
本社周辺風景 本社は緑が丘郵便局の2階



神戸電鉄 緑が丘駅 本社、施設の最寄駅



神戸電鉄 緑が丘駅前風景



施設周辺風景

平成 26 年 4 月



施設から見た周辺施設

三木市総合防災公園陸上競技場



御坂神社

三木市志染町御坂に鎮座する神社。「延喜式神名帳」に「播磨国美嚢(みなぎ)郡一座御坂神社」と記載された式内社で、旧社格は郷社。志染の氏神。

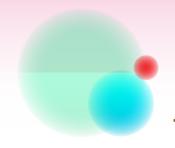
年頭に安全祈願祭を実施



^{みさか} 御坂サイフォン橋(めがね橋)

イギリス陸軍少将パーマ-氏が設計し、明治24年に完成。 山から谷を通って向かいの山へ水を運ぶこの疎水工事は、 当時としては、画期的な大事業で、サイフォン橋は昔の 姿そのままに役割を果たしている。

御坂神社の近傍



レクリエーション



平成26年4月



平成17年8月7日 **赤穂市 丸山県民サンビーチにてキャンプ**



平成17年10月9日 東はりま日時計の丘公園にて BBQ



平成20年3月28日 「グリーンピア三木」にて**歓送迎会**



平成20年3月28日 「グリーンピア三木」にて歓送迎会



平成20年4月11日 「ごちそう村三木青山店」にて歓迎会



平成20年4月11日 「ごちそう村三木青山店」にて歓迎会



平成22年4月23日 「ながさわ三木店」にて歓送迎会



平成21年12月18日 「かぶと」にて忘年会



平成20年12月18日 「からから鍋」にて忘年会



平成22年6月22日 「張家」にて送別会



平成22年4月23日 「ながさわ三木店」にて歓送迎会



平成22年4月23日 「ながさわ三木店」にて歓送迎会



平成22年9月15日 「ながさわ三木店」にて送別会



平成22年12月22日 「ながさわ道の駅みき」にて忘年会



平成22年9月15日 「ながさわ三木店」にて送別会



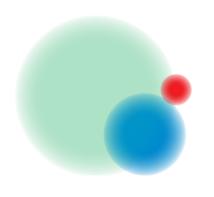
平成26年3月20日 「ながさわ道の駅みき」にて歓送迎会



平成25年12月13日 「焼肉 こさる」にて忘年会



平成26年3月20日 「ながさわ道の駅みき」にて歓送迎会



事業の変遷



10年の変遷

10年の変遷

平成 16 年 4月

会社設立

平成16年4月1日に、地震 工学に関する実験施設・設 備の設計、製作および維持 管理業務他を目的として兵 庫県三木市に設立され、平 成17年度から、独立行政法 人 防災科学研究所兵庫県 耐震工学研究センターの実 大三次元震動破壊実験施設 の維持管理業務を開始しました。



初代社長には、瀬崎社長が就任(平成16年4月1日)され、草創期の会社体制の整備と業務の開拓に 尽力されました。

設立時には、「グリーンピア三木」において記念 式典を行ないました。



当社の略称 Γ S E I T E C (サイテック)」は、正式名称である、「震動実験総合エンジニアリング株式会社」の英訳の頭文字をとって、解り易く制定されたものです。 Γ S E I T E C (サイテック)」の名称は、社員の限りない愛着と、客先・取引先等の親しみを戴きながら、広く使用されています。

Seismic Testing & Engineering Corporation

ロゴマークのコンセプト

SEITEC サイテック



当社のロゴマークは、地震の方向の「X・Y・Z」、振動台の「S」、サイテックの「S」をキーワードにして、Eーディフェンスのシンボルマークで使用されている三色(台地の割れと地震の姿、三次元の動きを表現)によりデザインされています。

また逆さに向けるとハートマークとなり、震災復興に架けた「みんなの心」を イメージしています。

7月 業務習得

業務取得を行う為に必要な技術の習得をするために実験装置の建設会社である三菱重工業から、(1) 実験装置の建設工事に関する業務の一部分 (2) 実験装置の保守点検に関する業務の一部分 (3) 実験装置の総合性能に関する業務の一部分を受注し技術の習得に努めました。

平成 17 年 4月

業務開始

独立行政法人 防災科学技術研究所から実大三次元震動破壊実験装置の維持管理を受注し、日常点検、定期点検、震動台運転、実験支援等の業務を以下の内容で開始しました。

・施設維持管理

施設内の安全管理、実験装置・付帯設備・建築設備の日常点検及び定期点検、 実験装置の保守運転等を行ないました。



・設備の保守点検の様子

平成 17 年

4月

震動台運転

研究所が実施する各種の振動実験に対応して、実験装置の運転を行なうと 共に、実験時には実験の成果となる科学的データの取得を行ない研究所の研 究活動に寄与してきました。

業務開始から合計約5,000回の運転を行いました。



・震動実験等のデータ収録

実験支援



実験のデータを取得するため、振動実験の試験体への計装センサー、計測配線、ビデオカメラ等の設置・撤去を行い、業務開始から合計約50件の実験の支援を行いました。

計測センサーの取付

平成 18 年 4月

業務拡張

国内外の企業・団体、地域住民の方に実大三次元震動破壊実験施設の紹介・施設案内をする「見学対応」を受注し業務を開始しました。

業務内容は、見学受付業務(見学者からの見学申し込みを受付ける。)、見学日程調整業務(見学申し込みに対してスケジュールを調整してこれを決定し、見学者に正式に伝える。)、見学者対応業務(センターで見学者に対して案内業務を実施する。)であり、今まで、合計で約30,000人の方が来所され、防災の研究施設を見学されました。



平成 19 年 6 月

瀬崎社長から吉田社長へ交代

瀬崎社長は当社設立の時(平成16年4月)から社長に就任され、草創期の組織作りに尽力されました。3年間在職され、平成19年6月に吉田社長にバトンタッチされました。



9月 計是及

社是及び行動理念の制定

社員全員が業務を進めるうえで大切な意識の方向性を定めるために、経営目的としての「社是」と「行動理念」を、 吉田社長が平成19年9月に制定されました。

社 是 「顧客第一」、「安全第一」

行動理念
「安全を合言葉に、設備と対話、お客と対話、仲間と対話」

平成 22 年 12 月

JIS Q 9001:2008(ISO 9001:2008)の認証取得



当社は平成17年の業務開始以 来、品質管理のために不具合処置 票の利用による活動を実施してい ましたが、平成21年に着任された 当時の防災科研業務室長殿のご指 導もあり、業務の品質と安全を確 保し、顧客満足を向上させるため の品質管理の手段として JIS Q 9001:2008(ISO 9001:2008)の認 証を取得すべく、平成22年初めよ りプロジェクト活動を開始し、平 成22年12月に認証取得しました。 1年という短期間で取得にまで漕 ぎ着けることができたことは、関 係の皆さんの一致団結した努力の 賜です。

平成 25 年

100万時間無災害記録達成

1月

当社は本施設運用開始以来、維持管理業務の一環として、統括安全衛生責任者及び元方安全衛生責任者を選任の上、統括安全管理業務を担当してきました。

当社社是にもあるように、安全第一をスローガンに、厚 労省所管の中央労働災害防止協会の表彰基準を参考に、 安全目標の区切りを、50万時間、100万時間、150万時間、 200万時間と定め活動を行なってきました。

その結果、50万時間を無事通過、平成25年1月11日には 100万時間の無災害記録を達成しました。そこで100万 時間という区切りの安全記録として残し、関係者に感謝 の意を表すために社内表彰されました。



6月 吉田社長から喜多社長へ交代

吉田社長は、平成19年6月に社長に就任され、6年間当社の事業の基礎作りにご尽力され、平成25年6月に喜多社長にバトンタッチされました。



9月 社是、行動方針の改訂

吉田社長が平成19年9月に制定された考え方に基づき、喜多社長が平成25年9月に改訂されました。

◆ 社 是 社是は当社の経営上の基本方針であり基本主張です。

社 是

- 顧客満足の信念に徹し、社業を通じて 国家・社会の繁栄に寄与する
- 安全確保を旨とり、技術力の研鑽に努めて 常に質の高いサービスを提供する



- 当社は常に顧客満足の向上を目指す質の高い社業を通じて、最終的には国家ならびに社会の繁栄に寄与することを願うものです。
- 質の高いサービスとは、安全確保を旨として常に研鑽された技術力と、良好な人間関係に基づくものです。これは顧客 満足の向上には欠かせない原則です。
- ◆ 行動理念 行動理念とは、社是を達成するための社員の行動規範です。

行動理念

- 1. 相手の立場を尊重し、常に謙虚な気持ちを持って顧客との対話、 仲間との対話に努め、誠実に対応する。
- 2. 設備との対話を通じ、常にその最良の状態を維持する。
- 3. 何事においても柔軟な発想をもって取り組み、日々新たなることに努める。

1. 良好な人間関係の構築

顧客はもとより、社内においても常に謙虚な気持ちで相手の立場を尊重しながら誠実に対話を進め、その中で自分の意見を相手に的確に伝えていくよう努力することが大切です。

2. 設備との関わり

設備の運転状態やその変化について、微細にわたり見逃さないプロフェショナルとしての観察眼と技術力を養い、設備が常に最高の性能を発揮できる状態を維持していくことが大切です。

3. 柔軟な発想と思考力

何事においても前例や慣例にとらわれることなく、固定観念を打破して常に柔軟な発想と思考力をもって行動し、現状をより良いものへ変えていこうとする意識をもつことが大切です。

平成 25 年 12 月

JIS Q 9001:2008(ISO 9001:2008)の再認証取得

平成 26 年

安全・品質管理部の設立

当社は平成25年12月にISO9001:2008の再認証審査を終え再認証されましたが、それまでは品質管理業務が組織的に明確な体制の基で運営されておらず、施設管理部にて実務を兼務していました。 再認証を機会に当社の品質管理体制を強化し当社業務の今後のさらなる質の向上を図るために、新たに平成26年1月1日に安全・品質管理部、安全・品質管理課の新設がなされ、内部監査員も増員されました。

2月 ホームページ開設及び会社案内パンフレット改訂

平成26年2月にホームページを開設しそれに伴い会社案内パンフレットをリニューアル致しました。





これからの未来

現在の当社の E-ディフェンスに関する業務は次の3項目に大別されます。

- 1 施設の維持管理・運転業務
- 2 研究支援業務
- 3 見学対応業務

今後、さらにお客様の要求に即した広範囲な業務を可能とするためにも 必要に応じて専門的知識と経験を有する人材をも確保して期待される E-ディフェンスの支援会社としての使命を果たして行きたいと考えています。

体制の変遷

平成 16 年 4 月 • 会社設立時 · 社員数 19人

企画総務部

技術管理部

社 長

施設管理部



鉄筋コンクリート建物の三次元震動破壊実験 平成18年9月

平成 20 年 4 月

- ・技術管理部を廃止
- ・ 企画総務部を 経営企画部と総務に分ける

· 社員数 24人

経営企画部

総 務 部

施設管理部



橋梁コンポーネント実験(C1実験)

平成 20 年 10 月



経営企画部

総 務 部

経営企画課

・部の下に課とグループを、

グループの下にチームを配置

総務課

施設管理部

- 機械・計測グループ
 - ・機械チーム ・計測チーム

- 電気・制御グループ
 - ・電気チーム
 - ・制御チーム

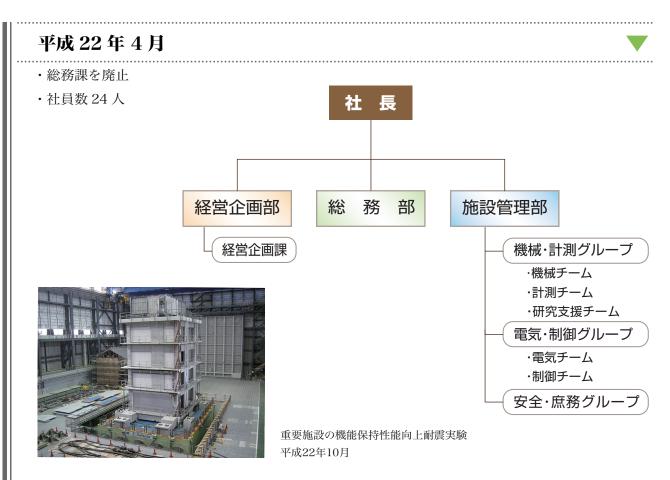
保安グループ

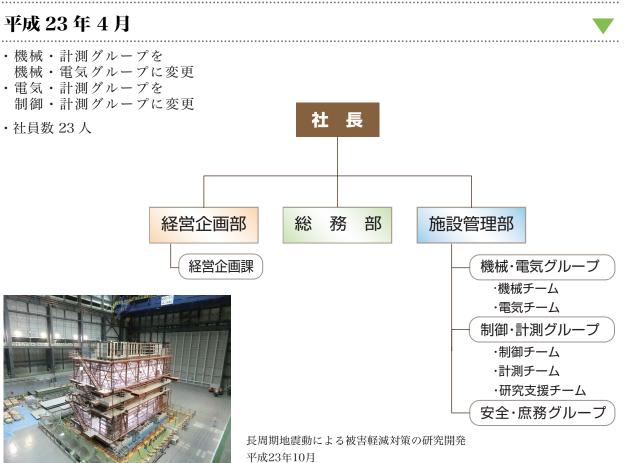


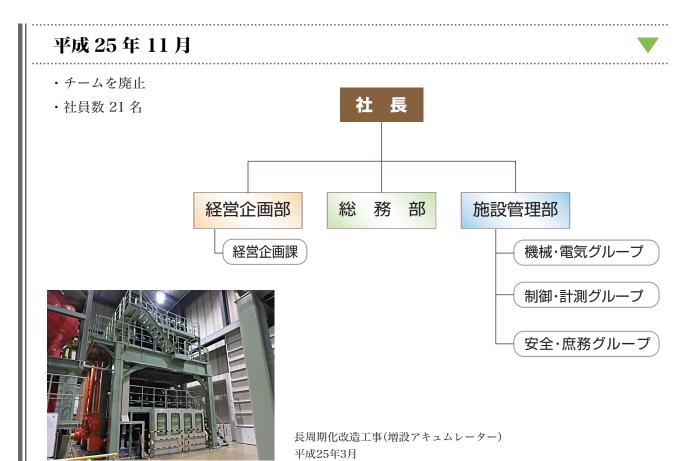
鉄骨造建築物実験研究 制振構造建物実験 平成21年4月

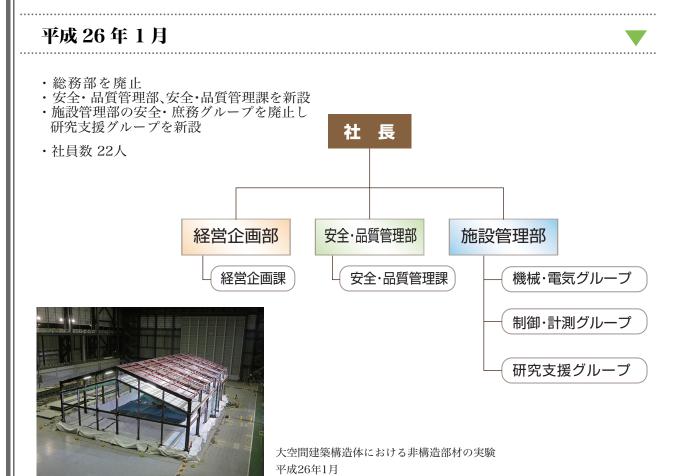
· 社員数 25人











取締役・社員の変遷

取締役・社員の変遷

現職者

		氏	名		在	籍期	間
代表取締役社長	喜	多	俊	清	H25.06.25	~	現在に至る
取締役	木	嶋	達	夫	H19.06.28	\sim	現在に至る
取締役	小	池	明	士	H19.06.28	\sim	現在に至る
取締役 (非常勤)	小	祝	昭	光	H20.01.31	~	現在に至る
取締役 (非常勤)	星	島	延	男	H23.02.18	\sim	現在に至る
取締役(非常勤)	小	中	元	秀	H26.02.21	\sim	現在に至る
取締役 (非常勤)	曽	野	和	彦	H24.06.14	\sim	現在に至る
監査役(非常勤)	矢	澤	作	多	H22.06.16	\sim	現在に至る
監査役 (非常勤)	冷	水	浩	幸	H23.06.15	\sim	現在に至る
経営企画部長	木	嶋	達	夫	H16.07.01	~	現在に至る
経営企画課長	西	JII	<u> </u>	全	H22.07.01	\sim	現在に至る
社 員	梅	原	章	予	H20.01.01	\sim	現在に至る
安全・品質管理部長	小	池	明	士	H16.07.01	\sim	現在に至る
安全・品質管理部次長	二扌	丰内	英	見	H19.04.01	\sim	現在に至る
主 任	2	4	直	樹	H25.12.01	\sim	現在に至る
社 員	松	田	鮎	美	H17.04.01	\sim	現在に至る
施設管理部長	<u> </u>	尾	博	幸	H16.07.01	\sim	現在に至る
機械・電気グループ長	鈴	木	政	宣	H16.07.01	\sim	現在に至る
主席	大	西	ţ	專	H19.04.01	\sim	現在に至る
主席	佐	伯	勇身	差 男	H20.03.01	\sim	現在に至る
主 任	城	井	健		H16.07.01	~	現在に至る
主 任	田	村	英	和	H21.08.17	\sim	現在に至る
社 員	大	森	茂	樹	H22.04.01	~	現在に至る
社 員	溝		太	樹	H26.03.01	\sim	現在に至る
制御・計測グループ長	松	本	昌	禎	H18.04.01	~	現在に至る
主 任	折	笠	悠	太	H17.04.01	\sim	現在に至る
主 任	野	村	茂	雄	H21.09.14	\sim	現在に至る
主 任	太	田	廣	宣	H19.09.01	\sim	現在に至る
社 員	松	本	佑	貴	H22.07.01	\sim	現在に至る

役員の変遷

役員の変遷

	平成 16 年	17	18	19	20	21	22	23	24	25	平成 26 年
	4.1 瀬崎	勝二		6.30)						4.1
代表取締役社長				6.28	吉田 清					6.25	
										6.25	喜多 俊清
取締役副社長	4.1 原田	孝幸		12.31							
専務取締役				7.1 5	安田 晉-	郎			6.30)	
	9.29	9 日下部	馨							6.25	
	4.1 山田				1.7						
					1.31 小	祝 昭光					
	4.1 春江	哲夫	3.3	 沢 邦泰				2.18			
取締役	4.1 尾野	了一	3.3 1	17() 2 (1.9			2.18 星	島 延男		
					1.31 服	部 幹雄					2.14
	4.1 佐々	木 宗雄		1.18							2.21 小中 元
	6.30 j	 越山 捷利		6.30	谷川 康明				6.14	 	
		C., VC 4			木嶋 達夫					114 111/2	
				6.28	小池 明士	- -					
	4.1 志村	光雄	1.18	1.18 「 清水 真st	}		6.16				
	4.1 白坂	充 5.31		113.4							
							6.16	矢澤 修			
監査役	 渡辺	5.31 次哉		i 重永 久	+ 610						
			5.5		6.10						
				吹原	正晃		6 蜂野 直	孝 6.15			
								6.15	冷水 浩	幸	
	西暦2004年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	西暦2014年

元職者

/山似石						-
		氏	名	<u>7</u>	主籍 期	間
代表取締役社長	吉	田	清	H19.06.28	\sim	H26.06.25
代表取締役社長	瀬	﨑	勝二	H16.04.01	\sim	H19.06.30
取締役副社長	原	田	孝幸	H16.04.01	\sim	H18.12.31
専務取締役	安	田	晉一郎	H19.07.01	\sim	H24.06.30
取締役	服	部	幹雄	£ H20.01.31	\sim	H26.02.14
取締役		下部	馨	H16.09.29	\sim	H25.06.25
取締役	長名		康明		\sim	H24.06.14
取締役	中	澤	邦泰		\sim	H23.02.18
取締役	尾	野	了一		\sim	H20.01.09
取締役	Щ	田	貴也		\sim	H20.01.07
取締役	越	Ш	捷利		\sim	H19.06.30
取締役	佐く		宗雄		\sim	H19.00.30
		江				H18.03.03
取締役	春		哲夫		\sim	
監査役	蜂	野	直孝		\sim	H23.06.15
監査役	清	水	真 金		\sim	H22.06.16
監査役	吹	原	正晃		\sim	H21.06.16
監査役	重	永	久 夫		\sim	H20.06.10
監査役	志	村	光雄		\sim	H19.01.18
監査役	渡	辺	欣 哉		\sim	H18.05.31
監査役	白	坂	充	H16.04.01	\sim	H17.05.31
業務統括推進役	田	中	孝三		\sim	H20.01.30
総務部長	Щ	下	信 雄		\sim	H19.06.08
部長代理	鶴	谷	身 延	E H22.07.01	\sim	H24.06.30
部長代理	小	林	恒 夫	H20.07.01	\sim	H22.06.30
経営企画課長	中	尾	敏 昭	H19.03.05	\sim	H22.04.30
	松	本	幸也		\sim	H26.03.31
	中	園	栄 二		\sim	H26.02.28
	吉	Ш	達治		\sim	H25.08.31
	松	林	博	H20.04.01	\sim	H23.09.30
	松	原	章 二		\sim	H22.04.30
	出	渕	かおり		\sim	H22.03.19
	<u>Ш</u>	崎	修修	H19.03.01	\sim	H21.07.31
	塩	谷	幸男		\sim	H21.05.29
	濱	田田	+ - + - + - + - + - + - - </td <td></td> <td>\sim</td> <td>H21.03.31</td>		\sim	H21.03.31
	飯	田田	晴男		~	H21.03.31
						H21.03.31
	鹿	島田			\sim	
	濵	田田	秀雄		\sim	H20.06.30
	前	Ш	哲 势		\sim	H20.03.31
	Щ		貴丈		\sim	H20.03.31
	松	本	和恵		\sim	H20.01.31
	柿	内	貴志		\sim	H19.09.30
	野		肇	H16.07.01	\sim	H19.09.30
	吾	郷	秀植		\sim	H19.06.30
	上	野	教 一		\sim	H19.05.31
	三	浦	達也	H16.07.01	\sim	H19.03.31
	中	村	昇	H17.04.01	\sim	H19.03.31
	吉	見	雅彦	H18.05.01	\sim	H19.03.31
	岡	崎	和生		\sim	H19.03.31
	金	田	由起子		\sim	H19.02.28
	星	島	明子		\sim	H19.02.15
	太	田	英機		\sim	H18.09.30
	福	井	里紅		~	H18.08.31
	加	藤	_	H17.11.01	\sim	H18.03.31
	末	灰次				H17.03.31
					~	
	小 #:	林	恒夫		~	H17.03.31
	花	浦	和久	H16.07.01	\sim	H17.03.31

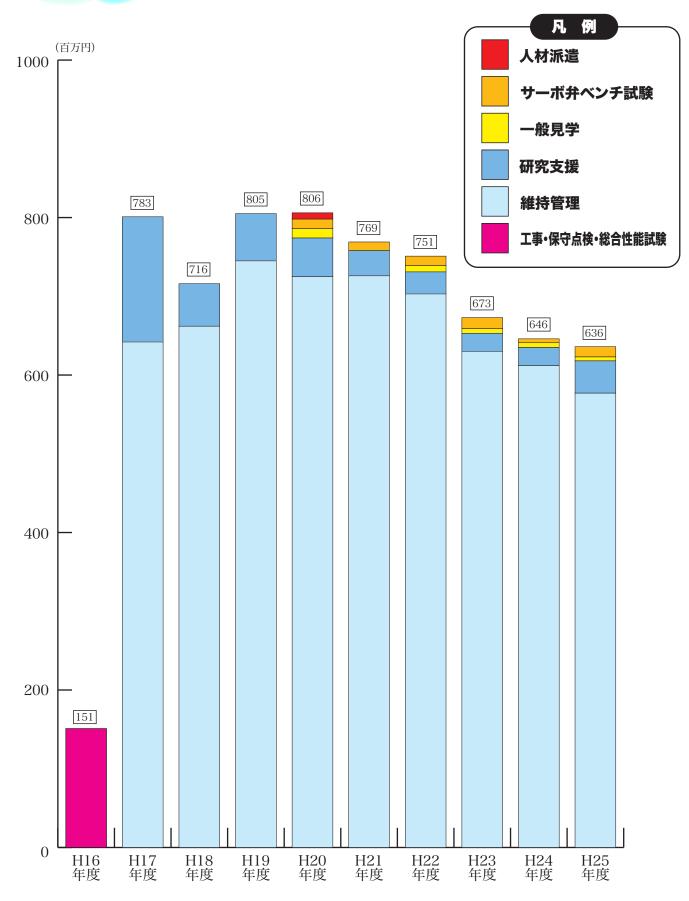
株主の変遷

株主の変遷

会 社 名	平成 16 年	17	18	19	20	21	22	23	24	25	平成 26 年
加速器 エンジニアリング 株式会社	4.1										4.1
三菱重工業 株式会社	4.1										
株式会社きんでん	4.1										
大成建設株式会社	4.1										
関電工業株式会社 関電プラント 株式会社 (社名変更)	4.1 9.30 10.	.1									
日本アドバンスト テクノロジー 株式会社	4.1										
株式会社 日建設計	4.1		5.15								
株式会社 マリンワーク ジャパン			5.16								
株式会社アカシ	4.1										
株式会社 日立製作所 株式会社日立	4.1		5.15 5.16								
プラントテクノロジー (社名変更) 株式会社 日立製作所									3.	31 4.1	
(社名変更) スプリング エイトサービス 株式会社	4.1										
株式会社 潮見サービス	4.1										
株式会社 サイエンス・サービス		12.20			2.2	23					
	西暦2004年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	西暦2014年



売上高の変遷







震動実験総合エンジニアリング株式会社

Seismic Testing & Engineering Corporation SEITEC(サイテック)

http//sei-tec.co.jp

◆経営企画部 **T** 6 7 3 - 0 5 3 2

兵庫県三木市緑ヶ丘町中一丁目11番15号

TEL: 0794-87-7320 FAX: 0794-84-2135

◆ 安全・品質管理部

〒673-0515

◆施設管理部

兵庫県三木市志染町三津田西亀屋1501-21

(E-ディフェンス内)

TEL:0794-87-8305 FAX:0794-87-8306



「10年のあゆみ」 編集後記

当社の設立 10 周年を記念して、編纂を進めて参りました「10 年のあゆみ」が、このたび発刊の運びとなりました。

編集に当たっては、社員全員の参加による手作りの記念誌となるように心がけ、当社幹部の挨拶とともに全員のメッセージを写真入りで紹介し、活気と躍動感に溢れた各職場での日常の作業風景や社内交流行事等の写真も掲載しました。また当社のビジネスパートナーである、株式会社 コベルコパーソネルの皆様にもご協力戴いて、暖かいメッセージを掲載することが出来ました。

当社設立からの事業の変遷については、歴代社長と役員の皆様、先輩諸氏のご尽力により積み上げられた歴史であることを強く認識して、当時の写真や図表等を用いて解り易く表現するように努めました。 施設周辺風景の写真では、三木市の歴史ある神社や施設・景勝地等を取り上げました。

なお編集に際しては、用語の使い方や写真の選択など不手際な点もあるかと思いますが、何卒ご容赦 のほどお願い致します。

「10年のあゆみ」の編纂に当たり、ご協力を戴いた独立行政法人 防災科学技術研究所殿をはじめ多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

「10年のあゆみ」編集委員会

西川 隆·折笠 悠太·谷 直樹 松本 昌禎·松田 鮎美·溝口 太樹

表紙写真 ◆ 三木市 黒滝

黒滝は、緑豊かな広陵地を流れる美嚢川にかかる滝で、三木市の景勝地。敷石のように大きな一枚岩から、水がすだれ状に落ちるこの滝は、川幅いっぱいに広がる横長の珍しい姿をしている。

震動実験総合エンジニアリング株式会社 「10年のあゆみ」

発行者 震動実験総合エンジニアリング株式会社

発行日 平成26年4月1日